



小網代通信

2017年5月号 VOL-227

発行：小網代ヨットクラブ

編集：広報委員会

編集長：里吉美恵子

〒238-0225

神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18

Tel&Fax 046-804-5550

今月の内容

- | | | |
|----------------------------------|--------------|--------|
| ・連絡事項 | 編集委員 | 1ページ |
| ・「2017 テティス4 南方諸島の旅と“小笠原ヨットレース”」 | 児玉 萬平(テティス4) | 2～5ページ |

連絡事項 (編集委員)

1. < 「舵」誌6月号 掲載 “KFR500 回記念レース” !! >



「舵」誌より転写。 集合写真では、500回の5を片手を出して皆で表現しています！

5月2日発売の「舵」誌に、3月19日(日)に開催された伝統のレース500回の記念レースとパーティの様やクラブハウスなどの取材記事「小網代フリートの歴史をたどる クラブレース 500回の軌跡」が6ページにわたり掲載されています。一昨年のフリート紹介、昨年の“小網代ヨットクラブ創立60周年記念のパーティ”と「舵」誌に記事が紹介され、そして今年も登場させていただきました。

2. < 12年ぶりの「小笠原ヨットレース2017」が開催されました!! >
小笠原の父島スタートで小網代フィニッシュの約500マイルレースが、12年ぶりに復活し12艇が参加して行われました。このイベントは、2018年に小笠原諸島返還50周年を迎え、その記念事業として開催されました。5月2日にスタートし、5月6日に全艇無事完走し終了しました。KYCから“テティス4”が参戦し、成績は(総合3位)(Aクラス3位)でした。テティス4のレポートを2～5ページに掲載しています。



 【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 5月22日(月)18:30～21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

2017. 5月号-1

2017 テティス4 南方諸島の旅と小笠原ヨットレース

テティス4 児玉 萬平

一昨年(2015年)、テティス4は本州一周、北前船の航路を辿る航海に出た。そしてその時、次の航海は南方諸島(八丈島から南、小笠原を含む硫黄島、沖ノ鳥島などの島々)を巡りたいと考えていた。

14年前のゴールデンウィーク、テティスⅢで小笠原クルージングに向かった。結局、それがきっかけでサラリーマンを辞め、ベンチャー経営に身を投じたのだったが、そのベンチャー経営も辞めて時間ができたのを受けて、もう一度あの深い青に白い雲の浮く空と、それを映し出すかのような透明感のあるライトブルーの海を味わいたかったのだ。

だが、その計画は6月が前提だった。丸一日走れば本州沿岸の梅雨前線を抜け、あとは真夏の海になっているはずだった。軽油をたっぷり積み、エンジンを回して冷蔵庫を冷やし、キンキンに冷えたビールをあおりながら南下する予定だった。

ところが、昨年暮れ、外洋三崎の新田会長(トレッキー)からゴールデンウィークに小笠原ヨットレースを復活させたいので協力してほしい、との話が入ってきた。新田さんはテティスⅢのクルーであった時期もあって、何とか協力せねば・との思いから、レースの誘いに乗ることを決断した。

ただ、それはそれなりの荒天が予想される海況を走ることを意味し、当初の真夏のお気楽クルージングモードが変わってしまった一瞬でもあった。

それでも、南方諸島訪問の旅をあきらめるのではなく、往路は可能な限り、それらの島(岩)々を見ていきたいと考えて計画を立てた。

また、ベテランヨット乗りにとっても、それらの島々を見る機会がほとんど無いと考え、小網代ヨットクラブのメンバーで回航をお手伝いいただける方がいれば一緒に訪問したいと考えた。

それに呼応して頂いたのがケロニア大谷さんと衣笠渡辺さんであった。もちろん渡辺さんは何回も小笠原レースを経験され、メルボルン-大阪DHレースにも参加されたベテランではあるが、島々はゆっくりと見たことが無いとのことであった。

残念ながら大谷さんは準備中の事故で入院されることになったので、大谷さんを除く5名(児玉、渡辺、伊藤、佐藤、藤村)で4月16日午前5時小網代を出港した。



回航コース俯瞰図



八丈島のギョサン



青ヶ島に近づく



25度も東に流される、黒潮は3.8kt

出港間際から WNW の風が 15~20kt、快調に足を延ばし、最初で最後の寄港地(この先小笠原までの 400 マイル港が無い)である八丈島には真夜中の着予想になった。あまり夜間入港はしたくなかったが、電子海図もあり、以前にも入ったことがあるので神湊に真夜中 1 時過ぎに入港した。20 時間余りのスピード航海であった。

すると、到着の日から翌々日まで台風並みの SW が吹き荒れるとの予報となり、結局 3 日間、温泉三昧・刺身三昧をしつつ出港の時を待つことになった。

ここで珍品オリジナルギョサンをゲット。テティスの Facebook に上げたら、初めて 3000View を超えた。

4 月 20 日 0 時、深夜の神湊を出港。早朝の青ヶ島を見つ、ベヨネーズ列岩に向かう。海の中から数多くの尖った岩が牙の様に出て並んでいる。ここは有名な明神礁(海中)と同じ火山のカルデラの西の端で、明神礁は 15 マイルほど離れた北東端にある。海底地形を見ると巨大な火山だ、変色帯も出ており航行注意が出されていた。この辺りが黒潮の流軸らしく西から東に 3.8kt の潮が流れている。AIS で見ると大型のカツオ漁船の数も多い。そのままの角度で南に向かうと今度は須美寿(スミス)島がある。南北に屏風のように立っていて高さも 136m ある。この島も別のカルデラの南の端だ。ここで日没となり、鳥島の西をかすめて南下するも、鳥島の形は確認できなかった。

4 月 21 日 08 時、孀婦岩(99m)にアプローチ。以前最初に目にした時は夕日の中に屹立する姿に強い感動を覚えたが、改めてみても、その荘厳さに圧倒される。記念撮影をしながら一周し、次の目標、西ノ島に進路を向ける。

すると連絡責任者の高木君から衛星電話で火山噴火警戒警報が出ており、1 マイル以内には近づいてはならない旨を知らされる。1 年ぶりの噴火だそう。

それでも、今回の最大の目標でもある西ノ島は外すわけにいかない、ここから 24 時間以上 20kt を超える SW の向かい風予報に多少気が滅入るが、予定通り西ノ島に向かうことにする。幸いなことに風も若干西に振れ、クローズドリーチで向かうことができるようになった。

22 日 10 時、西ノ島を仰ぐ。時折、ジェット機の爆音の様な噴火音が聞こえ、噴石が盛んに噴き上がる。大きいものは軽自動車くらいの大きさがあるのだろう。1 マイルと思しき距離を置いて風上(西)側を回って父島に向かった。



ベヨネーズ列岩の奇景



須美寿島、まだまだ強い潮が入っている



孀婦岩にアプローチ



噴石を上げる西ノ島に近づく

南下するにつれ、気候が変化してきた。西ノ島から父島までの70マイルは、前線性のスコールとのおっかけこととなり、上空に雲がかかると雨と強い風がセットで押し寄せる。結局ここから先スタートの前日まで、たった1日を除いて雨の中の小笠原となってしまった。風は追手となり、スピードも上がって22日20時父島二見港に入港した。

翌23日は応援団長ミーさん、助っ人池田夫妻が小笠原丸で到着、さらにその翌日24日は唯一の貴重な晴れ間を縫ってクルー全員、ホエールウォッチングや南島見学に出かける。艇長一人焼酎を飲みながら日向ぼっこをしながらのんびり船番。

4月25日は母島での体験セーリングが組まれていたが荒天のため中止、4月27、28日は父島の地元中高生・一般の方々200人の体験セーリングを実施した。一日4回7、8人を乗せて湾内を帆走する。雨にもかかわらず皆さん熱心にセーリングを体験する。風が強くとヒールするたび歓声が上がるが、下船するときには口々に、楽しかった！と言ってきて、こちらもうれしいを感じた・・とはいえ、2日で7回、セールの上げ下ろし、全員に操船させる・・など、想像以上の重労働で、終わった時にはクルー全員、精も根も尽き果てていた。

4月29日、予定されたイベントもないことから、当初目標であった母島を訪問することにし、テティス単独で早朝5時に二見出港。追手で順調に進んだが、潮が強くと母島の北の端の暗礁地帯に寄せられ慌てた。あとで地元のヨットマンの話を知ると、ここはとにかく西に離して通過するのがコツだとのことだった。

10時過ぎ、母島港に入り、近所を散策。コミュニティーのお祭りらしきものがあったりして人が集まっていたが、いかんせん絶対的な人数が少なく、静かな港と村だった。地元民に紹介された飲み屋さんにはなかなかの味で良い意味で予想を裏切ってくれた。

翌4月30日、後発レースクルー（高木、飛車角五十嵐、鎌田、新美）が小笠原丸で到着する日だ。それまでに二見港に戻ろう、あわよくば湾口で出迎えようということになり、やはり5時過ぎに母島港を出発した。

一方、この日から小笠原は本来の青い空と海の島の姿に戻った。今更遅いわ・・後発レースクルーは全く雨知らず・・でスタートを迎えることになった。



西ノ島を無事回航して乾杯



体験航海、小笠原高校JKたち



母島港のテティス



母島からの帰り、湾口で迎えたテティスを小笠原丸から撮影

5月1日、艇長会議、整備、前夜祭・・・と行事が続く。
ここで、テティスの戦略兵器コード0を積み忘れたことが判明。積載品の最終チェックを怠った艇長の責任は重大、皆に詫びる。

スタート後2日目、やはりこの武器がキーだったことを思い知った。

5月2日スタート初日、そして4日の最終日の走りを見れば、テティスの快走ぶりは顕著なものがあつたが、2日目の夕刻、幸運なことに往路に見えなかつた鳥島が夕日をバックに眺めることができた。これで予定したすべての島を確認できたのだが・・・その夜、吹き上がる風と黒潮の中のラフな波を受けてジェネカーをフォースターに絡め、その回収作業をするためコースを外れてロスし、また黒潮の流軸に変化に気づかず正面から黒潮に突っ込んで行ってしまったロス・・・多くの失敗がありながらも、所要時間3日と2時間で小網代にフィニッシュ、最終結果IRC総合3位、Aクラス3位に食い込めたのは、クルー全員の勝利への執念がものを言ったのだらうと思う。

改めてクルーの仲間たち、そして応援いただいた多くの方々に感謝したい。



スタート前のテティス・クルー



晴天のもと、良いスタートを切る



ハリヤードトラブル解消中、2回目のマスト登り。